

令和7年度日本重症心身障害学会第1回理事会 議事録

日時：令和7年6月23日(月) 19:00～21:15

場所：Zoom によるオンライン会議

出席者；口分田政夫（議長）、石井光子、木実谷哲史、後藤一也、佐々木征行、鈴木郁子、曾根 翠、田中総一郎、中川栄二、根津敦夫、松葉佐 正（理事）、浜口弘、山田直人（監事）、船戸正久第49回大会長、村田博昭第50回大会長、関 環（事務局）、須貝研司（書記）

I. 報告事項

1. 令和6年度事業報告

1) 第49回学術集会開催報告（船戸前大会長）

2024年11月8日(金)・9日(土)、神戸国際会議場で「重篤な障害児・者の方のトータルケアを多職種協働でどのように大切に支援するのか？～QOL 支援と QOD 支援のベストプラクティスを目指して」というテーマで行われ、参加者1500名以上、演題280題、会計収支は0円であった。

事後アンケートでは93%が「非常によかった」、「よかった」で高評価であった。アンケートは次につながるの、今後行うのが望ましい。

2) 会務報告(口分田理事長)

- ・新評議員3名を承認
- ・アバノス、(株)メディバンクスよりの当学会 新規格・旧規格経腸栄養製品の賢い使い分けマニュアルの転載許諾申請を許可
- ・日本小児神経学会よりの『特別支援学校の「子どものための指定福祉避難所」施設整備と指定・公示促進に関するお願い』要望書手交後の経過報告と各地方自治体に対しての働きかけ依頼を役員で共有
- ・医学書院よりの系統看護学講座小児臨床看護総論への学会誌の転載を許可
- ・予防接種ガイドライン2025年版の重症心身障害児に関する部分の査読依頼に返事
- ・中川理事よりの編集委員追加の提案を承認
- ・船戸先生よりの学術集会の職種登録に歯科衛生士の箇所がなかったとのことで、次回より歯科衛生士の職種を追加することを確認
- ・みずほリサーチ&テクノロジーズ株式会社より、文科省から委託の「学校における医療的ケア実施体制の拡充事業（医療的ケア看護職員の人材確保・配置方法に関する調査研究）学校における医療的ケアの手技に関する研修動画コンテンツ作成事業」コンテンツへの新規格・旧規格経腸栄養製品の賢い使い分けマニュアルの転載を修正の上承認
- ・日本小児在宅医療学会 事務局より 学術集会開催にあたり後援依頼を承諾
- ・東京都立東部療育センター 高橋良枝先生よりの2022年度より評議員退任の申し出を承認
- ・50周年に当たり、研究会誌（一部学会誌を含む）劣化予防とアーカイブのための電子化を提案し全理事が賛同

・50 周年記念ウェブサイト企画のための 第 1 回 Web・広報委員会、第 1 回将来検討委員会合同委員会を開催

・重症心身障害者の癌の研究に取り組んでいるフランスの非営利団体 Oncodef から当学会誌の論文や抄録をフランス語と英語に翻訳して Oncodef のウェブサイトに掲載協力依頼があり 2 編承諾予定？（中川理事より）

・小児慢性機能性便秘症診療ガイドライン(2025 年) の作成のための協力団体の承諾及びパブリックコメントへの協力を承諾。

3) 委員会・部会報告(議事録は会員専用サイトを御参照)

i. 将来検討委員会(口分田)、

・学会体制整備検討部会(松葉佐)：まだ委員会は未開催だが、第 50 回学会までにはウェブで 1 度開催したい。委員は第 2 希望のみだが、理事や若い会員の参加を求める。

・歴史・用語・理念・倫理部会(根津)：第 50 回学会で他の委員会や大会長と一緒に種々の企画を考えているが、まず自分と看護の委員とで将来を見据えてというシンポジウムで講演。鈴木理事にお願いしてリハビリの委員が加入。学会ホームページの用語集の改訂を行いたい。倫理は鈴木理事にほぼ全面的にお願いしているが、第 50 回学会で生命倫理と研究倫理というシンポジウムを企画していただいている。

ii. 社会活動委員会(石井)：まだ未開催。

・医療的ケア児・者支援検討部会(田中)：まだ進んでいない。地域では施設がいっぱいで何年も施設入所待ちが多数あり、代わってグループホーム的なところにはいり、訪問診療、訪問看護が対応している例が増えている。家族が高齢になると、入所先があるのはありがたいが、どのくらい重症心身障害児・者を理解してくれているのかが懸念される。

(曽根)：グループホームでは車椅子にすわりっぱなしで、寝返りで移動できる方でもそのため股関節や膝関節が固くなるなどの弊害が出ている。医療的ケアが必要ない場合は、かえって粗大運動が落ちてしまうことがあるので、グループホームは要注意である。

・新規コネクタプロジェクト WG (口分田)：旧規格コネクタの併存が認められているので新たな議論はしていないが、根津理事が日本重症心身障害福祉協会に、ミキサー食の注入を支援員や介護の方ができないかと提案し、児玉理事長が、高齢者も関係するのでハードルは高いが各施設の意見をとりまとめて少し進めてみると言われた。非医療職がコネクタからミキサー食を注入できないか意見交換し、協会と共同してできるかどうかを検討してゆきたい。

(根津)：ミキサー食注入はいろんな面でよいことがたくさんあり、医療費節減にも通じるので、厚労省に働きかけてゆきたい。

iii. 医療・福祉制度検討委員会(木実谷)：未開催。対面で早く開催したい。

iv. 看護専門研修委員会(口分田)：去年 1 回委員会を開催したが、今年はまだ開催していない。公益社団法人日本重症心身障害福祉協会認定の看護研修制度が広がっており、重症心身障害看護をやるとうとする多方面の機関に少しずつ活用されている。本学会も協力して講師の募集や公開の研修を共同活用することなどをホームページ上で発信したい。この認定制度ではこの学会への参加や発表が大きな単位数として認められているので、会員や出席の増加のためにも、福祉協会の研修制度

に協力してゆきたい。

v. リハビリテーション委員会(鈴木)：2ヶ月に1回開催し、各部門が2人ずつ交代で発表し、共通の内容の確認と新しいことを勉強している。今度の学会でもシンポジウムを行い、医師、PT、OT、ST、心理の各部門で目指すことを発表し、若手の育成にも努めたい。

vi. 倫理委員会(鈴木)：6月に委員会を開催。研究倫理は根津理事の方と合体してやらせていただきたい。学術集会の抄録の研究倫理のチェックリストを作成したが、学会誌かホームページに掲載したい。中川理事からスペースがあれば掲載を検討するとの返答があり、編集委員会に送ることとなった。

vii. 基準・手順・治療指針・マニュアル検討委員会(佐々木)：2つの部会と1つのWGがあるが全体の委員会は未開催。

- ・重症心身障害児・者てんかん治療指針作成部会(須貝)：令和6年度は3回会議を行なった。最新の3月の時点では、倫理委委員会承認11施設、近日中に承認予定1施設で、症例のエントリーは約93例、現在実施中は各施設0～30例、計約70例。今年の小児科学会で当施設の予備的結果(プレリミナリーレポート)を発表した。今度の学会の教育講演で指針の具体的な内容を発表し、来年の学会ではある程度のデータを発表したい。

- ・痙縮治療部会(根津)：未開催

- ・呼吸器・感染症WG(村田)：今回の学会でシンポジウムを行い、NHQで行った結果を発表予定。

- ・(口分田)：栄養の分野でも部会を今後発足させ、栄養のガイドラインなどを発表したい。

viii. 日中活動・療育・ICT委員会(後藤)：アンケート調査を準備中で、11月の学会では概要を報告するように準備を進めている。

ix. 編集委員会(中川)：投稿数は例年通りだが今年は増えており、看護師からの投稿が増えている。昨年度、編集委員を追加した。査読で意見が分かれた場合は第3査読者をお願いし、不受理はなるべく避けている。年に2回の編集委員会を行っているが、次回は今度の学会で対面で行いたい。学会誌の経費削減のため、紙を薄くすることにした。査読を断る評議員が多いが、査読を断らない人を評議員を推薦してほしい。

x. Web・広報委員会(曾根)：昨年度はウェブサイトのリニューアルを行い、新着情報を入れている。会員情報サイトには委員会等の議事録を随時掲載している。50周年記念ウェブサイトに関し、5月に将来検討委員会と合同会議を行った。

4) 令和6年度収支決算報告及び監査報告(曾根理事・庶務幹事・濱口・山田監事)

収入の部では、予算に対し決算では、おもに、会費収入の大幅な減少および学術著作権使用料の減、会誌売り上げ・掲載超過量・寄付金・委員会費返却の増により、388,420円の減少であった。会費収入の減少は会員数が減ったためではなく、会費納入率が減少したためである。

支出の部では、予算に対し決算では、会誌作成・発送量の大幅な増加とJ-stage 登載経費の増加、事務局人件費・通信運搬交通費・委員会費・雑費の減少と学術会議運営予備金未使用により、310,598円の残であった。

令和6年単年度決算では収入16,107,464円、支出16,790,402円で682,938円の赤字となり、次年度繰越金は6,227,163円に減少した。

会計監査は2名の監事により、いずれも適正と認められた。

令和6年度決算は全会一致で承認された。

なお、収支決算書の記載がわかりにくいので、収入の部では予算に対して決算が少ない場合を赤字または△で、支出の部では予算に対して決算が超過した分を赤字または△で表示してはどうか、という意見があった。

5) 会員動向及び役員人事（曾根理事・庶務幹事）

会員動向：個人会員は、入会 486 名、退会 302 名で 164 名増加し、2258 名

団体会員は、入会 3 団体、退会 1 団体で 2 団体増加し、54 団体

役員人事：高橋良江氏(看護師)が評議員を辞任

6) その他 なし

II. 協議事項

1) 令和7年度事業計画(案)

①第50回学術集会の開催（村田会長）

シンポジウムの調整が少し必要だが、今年の学会誌1号に載せたような内容で準備を進めている。協賛が集まらず、昨年の半分くらいであることが困っており、予算が厳しくなっている。協賛いただけそうなところに声をかけていただきたい。演題募集を締め切ったが、まだ足りないので募集を延長しており、演題提出の声をかけていただきたい。

②学会誌の発行（中川編集委員長）：vol.50 NO.1, No.2, No.3を順調に発刊進行中。

③総会、諸会議の開催：16時理事、18時評議員会（第2回理事会後）、総会（学術集会1日目）。
（村田会長）：理事会、評議員会は駅ビルの会場で行う。

④50周年記念事業：ウェブ・広報委員会と将来検討委員会と話し合って以下のように決定した。

50周年記念企画

学術集会で記念講演、記念シンポジウム

ウェブサイトで、学会の経過の年表、

メッセージ（関連団体の理事長クラスに依頼＋ウェブサイトで公募300字）

【会員のみ】アーカイブ（小林提樹先生の講演動画）、J-stageに掲載できないバックナンバーの掲載

学会前の10月完成を目指しており、バナーは公開できるように完成済み。

ウェブサイトの公募のバナーを貼り付ける許可をいただきたい→全員賛成で承諾

2) 令和7年度決算予算（案）（曾根）

収入の部 前年度繰越金に会費徴収2,000名、その他は前年通りとして、23,013,613円

支出の部 前年度決算より学会誌関係と人件費を減額、他はほぼ前年決算通りとして18,190,500円

令和7年度単年度収支では収入16,786,000円、支出18,190,500円、

差し引き1,404,500の赤字となり、次年度繰越金は4,823,113円に減少

i. 今後の展望について

学会誌発刊、郵送料は今後も値上がりの可能性大で、このままでは繰越金は確実に減り、学会準備金も出せなくなる恐れがある。

医師会員を 10,000 円、他職種は 8,000 のままとするのはどうか。医師会員は全 2256 名の約 4 割なので、1,600,000 円以上の増収になる。

雑誌をオンラインにする方法があり、いくつかの学会ではすでに行っているが、オンラインにすると読まなくなる。とくに当学会は医師以外の会員が多いので、会員数の減少につながる。また、オンライン化するにも費用がかかる。

メディカルオンラインを、利用することで現時点でも、経費なしでオンライン化して公表できる。しかしこれは学会誌のオンライン化とはならない。

(口分田)：次回の理事会までに対策案の費用対効果や他の配布方法を提出していただきたい。

医師会員は、会費を 10,000 円に値上げすることは次回理事会で検討する。

ii. 委員会(対面開催)費用計上について

予算が厳しいので、対面での委員会活動は、会場費とお茶代は出せるが、弁当代と食事代は困難である。1 回 10,000 円以内なら 8 回までは可能。

(村田大会長)：ホールの楽屋が使えるので、場所代は安く可能と思う。ランチョンセミナーの控え室の空き時間も可能かもしれない。対面委員会を希望する場合は、村田会長または大会事務局と学会事務局に申し込んでほしい。調整する。

iii. 委員会活動に関連した成果の学術論文投稿について

これは個人の原著ではなく、学会報告とする。それに関連するがオリジナルな部分は個人の投稿としてかまわないが、投稿料は個人で払う。

3) 新役員推薦

口分田理事長：①垂髪あかり先生(鳴門教育大学大学院研究科准教授)

②田村和宏先生(立命館大学産業社会学部教授)

石井理事 ③石原あゆみ先生(国立病院機構下志津病院病棟部長)

鈴木理事 ④岸本光夫先生(重症児・者福祉医療施設ソレイユ川崎リハビリテーション部長)

⑤郷間英世先生(姫路大学看護学研究科特任教授, 学長)

根津理事 ⑦久保田雅也先生(島田療育センター院長)

(口分田) 地域性と評議員の人数が問題であるが、人数は会員 40 名に評議員 1 名であれば現在の会員約 2400 名では 60 名であり、現在の評議員は 52 名なので、この 7 名を加えても定数内である。地域性は将来大会を引き受けてもらえるように選びたいが、今回は多職種なのでこのまま承認したい。

4) 名誉会員推薦(口分田)：熊谷公明先生

5) 庶務幹事増員について(曾根)：業務の多さと一人が止めたときのリスク管理の点から、庶務幹事は 2 名必要。事務局と密接な連絡が必要なので、当面は東大和療育センターの江添評議員を考えており、本人の内諾を得ている。曾根理事が辞めた後は、東大和以外の方が入るのがよいと思われる。

今回、2名に増員はこの理事会で承認いただき、人選は次回の理事会できめたい。

6) 倫理委員会より提案（鈴木）：重症心身障害の方々の生きている意味に関する提言をこの学会で出したいので、将来検討委員会の中で生命倫理と研究倫理を合体させたプロジェクトチームを発足させたい。郷間先生、口分田先生、松葉佐先生、曾根先生、船戸先生、笹月先生などにはいつていただきたい。

（口分田）：将来的な人選は今後として、現在の将来検討委員会の中で生命倫理と研究倫理を合体させたプロジェクトチームを発足することとする

7) 第51回(令和8年度)学術集会：愛媛県、若本裕之副会長

8) 第52回(令和9年度)学術集会：宮城県、天江新太郎評議員

9) 第53回(令和10年度)学術集会会長選任(口分田理事長)：東京都、曾根 翠理事

1)～9)の協議事項はいずれも全会一致で承認された。

10) その他（曾根）

学術集会運営マニュアル改定について。神田前事務局員がまとめてくれたものがあつたが、時代にそぐわない点などもあり、曾根理事が改訂した(資料11)。修正すべき点などがあれば指摘していただきたい。

Ⅲ. その他

次回開催日：令和7年度第2回理事会 令和7年11月20日(木)、津市